

居住支援事業研修会

住宅セーフティネット制度と居住者支援についての実施報告

開催日時：令和3年12月7日 10:30～12:00

会場：オンライン(zoom)

参加者：不動産業者1名

講師1名、NPO法人いなほ5名

合計7名

【内容】

① 住宅セーフティネット制度について

当法人正会員様よりリーフレットを使用しながらご説明いただきました。

空き家・空き室にお困りの大家さん向けに住宅セーフティネット制度では経済的な支援を行っており、入居者受け入れの際に改修・補修が必要な場合は支援を受けることができます。国の定める予算に応じて支援を受けられる戸数は年度毎に異なりますが、住宅確保要配慮者専用の住宅に登録することで、改修費用に対して保証を受けることができます。費用補助には国による直接補助と地方公共団体を通じた補助があり、補助率・補助限度額に違いがあります。他にも改修資金の融資として、住宅金融支援機構の融資を利用することができます。融資の上限は対象工事費用の8割、返済期間は20年以内となっています。さらに初回の家賃債務保証料や家賃の低廉化に係る費用に対しての補助も受けるとご説明いただきました。

② 居住支援について

当法人担当職員がご説明いたしました。

居住支援は相談、面談、お部屋探し、引っ越し、見守りの流れで支援を行なっています。相談は電話でいただくことがほとんどです。支援対象者は高齢者、障がい者、子育て世帯など住宅の確保に配慮が必要な方々(住宅確保要配慮者)です。このような方々が社会福祉協議会様、地域包括支援センター様や担当のケースワーカー様を通じて当法人に相談し、面談や現在の状況の聞き取りから始まります。入居前のサポートには相談、面談やお部屋探しなどがあります。相談者さんのご希望になるべく添えるよう丁寧に聞き取りを行な

い、お部屋探しや内覧などを手配します。その後荷造りや退居前清掃などの引っ越し前支援、荷物の運搬やライフライン開栓の立ち合いなどの引っ越し支援を行なっています。引っ越し後も定期的に連絡をとりながら困りごとのお手伝いや買い物補助などのサポートを見守り支援という形で対応しています。定期的に連絡をとることで安否確認、生活環境や心の状態を見ることができます。

③居住支援の現状

当法人の数ある居住支援の事例の中から抜粋して4つの事例を紹介しました。以下に記載するものはその内の1つの報告となります。

令和3年4月19日の事例紹介……相談者は40代女性で、精神疾患をお持ちの生活保護受給者。現在は白血病の後遺症のため療養中。相談内容は「娘さんの進学による世帯分離のため現在のアパートから引っ越したい」とのこと。解離性障害のため環境を変えることができないのでなるべく近い地域で、生活保護費内で住める場所にしたいと希望されていた。また、距離のある2か所の病院に通われているので病院までの交通の便のよいところで探してほしいとのこと。生活保護受給中のため本来は引っ越し費用が支給されるが、ご本人が業者さんの介入を嫌がったため当法人が精神保健福祉士さんと連携をとりながら全面的に支援した。精神疾患のため掃除などが全くできずヘルパーを頼んでいたが、気分により断っていたので引っ越し準備が全く進んでいなかった。気分により連絡もとれないことが多くなかなか支援が進まなかった。当法人では物件探し、内覧同行、契約同行、荷造り、ごみの処分、退居する物件の清掃や引っ越しを支援。退去期限ギリギリになり、やっと本人がやる気になったので荷物の処分が進んだ。引っ越し前日、当日と時間をかけて十数年分の汚れを掃除。作業の甲斐があり退居費用をかけずに退居することができた。

現在も保健福祉士さんと連携をとりながら見守り支援を行なっている。

【現状】

市外でのセミナー開催によって居住支援事業を知っていただき、より多くのご連絡をいただけるようになってきました。不動産業者さんや行政の方はもちろん、ご本人様からの相談も増えております。新居探しの理由は様々ですが生活保護を受給されている方、これから受給予定の方はまだまだ審査が厳しく入居することが難しくなっています。居住支援をするうえでなかなか難しいことも多いですが、最近では生活保護を受給予定で入居された方でしたが無事に就職できたと後日ご連絡をいただく機会がありました。新居に住み始め、新しいお仕事に就いたことでご相談をいただいた時よりもいきいきしていらっしゃる姿に居住

支援の大切さを改めて感じることができました。新居を探すだけでなく、引っ越し後もお手伝いやお話をしながら情報共有できるというのは、支援する法人と相談者様にとって安心できる関係を築く大切なことであると感じました。これからも相談者様とのつながりを大切に支援していきたいと思えます。

【アンケート結果】

- ・今まで疑問に思っていた部分などお伺いできて大変勉強になりました。また、事例をまじえてのご説明もとても参考になりました。不動産会社にとっても入居者様にとっても本当に心強い存在だと改めて実感いたしました。もっと他社にも知って欲しいのでどんどん周知していきたいと思っています。



居住支援事業研修会 全体写真